

## 「防衛単純化の機制」

新型コロナウイルスの拡散とともに広がる人間の不安心理について、前々回に書いた。そのことについて今回もう少し述べておきたい。

人間はこの世の中で最も複雑に進化した生き物らしい。しかもこの世に生まれてきた生物の中で最も新しい存在でもある。この新参入者にこの世が都合よくつくられているはずがない。逆に新参入者に敵対しようとす他の生物が多数いるのにちがいない。ウイルスなどこれを何度もやっつけたところで、また新しいウイルスがやってくる。何しろ発見されたウイルスより潜在するウイルスのほうが圧倒的に多いらしい。自然も人間にしばしば反抗的である。洪水や地震は恒常的でさえある。

要するに私ども人間は、敵に囲まれてこのか細い人生を生きながらえているのである。敵のすべてを不安と恐怖の対象としてこれに抗するといふのであれば、私どもは不安と恐怖に打ちのめされたひどい人生を送らざるを得ない。もちろん、そんなことはわかっているという声が聞こえてくる。

渡辺利夫（拓殖大学理事顧問）

一九三九年、山梨県生まれ。七〇年、慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了。経済学博士。筑波大学、東京工業大学教授などを歴任。拓殖大学国際開発学部学部長、学長、総長などを経て、二〇一五年十二月より現職。

だが、私どもは、敵は実際には無数に存在しているのにもかかわらず、とかくそうは考えたくはない。敵を少数に絞り、ある特定の敵と戦いこれに勝てば不安と恐怖から解放される、そう考えがちである。高良武久（たけひさ）のいう「防衛単純化の機制」がこれである。

新型コロナウイルスは不安と恐怖の対象である。これが昂じて罹患者（りかんしゃ）や罹患者の治療に職を賭す医療従事者、その家族までを不安と恐怖の目をもってみつめるようになっては、いかにもこの世は危うい。「自粛警察」という嫌な言葉も耳に入る。人びとを容易に誘ってしまう危険な心理なのであろう。

コロナの第二波、第三波がやってくるのかもしれない。いや、その前に特效薬や抗体獲得が可能となるのかもしれない。でも新しい敵がいずれ襲ってくるのであろうと想定しながら、日々を乗り切っていくよりほかない。不安と恐怖に打ち勝つことが人生の目的ではないのだから。事実を事実として「あるがまま」にみつめて、少しでもまっとうな生を送りたいと思う。